

物価高からくらし・営業まもる区政に全力

あなたの
身近な
相談相手



日本共産党 新宿区議会議員

沢田あゆみ

明るい新宿

2023年春号外
発行●明るい新宿社 新宿区北新宿1-30-26 篠崎修之

日本共産党・沢田あゆみ区議の活動を紹介します。

ご相談はお気軽に 090-3088-9591

(ショートメール可)

(沢田あゆみ事務所) 新宿区西早稲田2-19-1 共美ビル地下



■プロフィール

1965年福岡県生まれ。農林水産省で働きながら女子栄養大学を卒業。1995年から新宿区議会議員7期。党区議団で幹事長、団長など歴任、現在、政調会長。家族は夫(1女1男は独立)。

■沢田あゆみの活動地域

西早稲田1～3丁目(都営早稲田アパートを除く)、高田馬場1丁目、大久保3丁目、戸山3丁目1番、17～21番

バズって
ます

沢田あゆみのSNS ぜひご覧ください



夜のト一横を視察に行った時の動画が、Twitterで5万回以上再生されています。

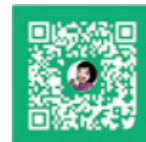
ブログ



ライン



ツイッター



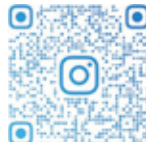
フェイスブック



TikTok



インスタグラム



国の5万円の給付金は非課税世帯でなくても対象(家計急変世帯)になる事をお知らせした動画が、TikTokで約40万回以上再生されています。



ブログでは、「おいしい話題」の簡単手抜き料理が好評!

私は、29歳の時に初当選してから7期28年、地域のみなさんに支えていただき、二人の子どもを育てながら区民の声を区政に届け、実現してきました。

今、コロナ禍と物価高騰でくらしも営業も大変です。国は軍事費2倍化のため増税すると言っていますが、とんでもありません。こんな時こそ住民に最も身近な区政が、くらしと営業を守る防波堤となるよう、私、沢田あゆみを引き続き区政で働かせてください。

沢田あゆみ



沢田あゆみの歩み

ジェンダー平等を背中で教えてくれた母

父から知った「侵略戦争に反対した日本共産党」



働きながら女子栄養大学で学ぶ



「バイク女子」だった公務員時代

福岡県生まれ。保健師や養護教諭をしていた母の口癖は、「女性も自立せにゃ」。ジェンダー平等の生き方を背中で教えてくれた母でした。父は日本共産党員の音楽家。14歳の時に朝鮮で終戦を迎え、妹をおぶって命からがら引き揚げてきた経験から、「戦争だけはしちゃんらん」が口癖。障害者福祉作業所で音楽の指導をしていた父を通じて、福祉の現場にふれたことが貴重な経験になりました。父の戦争体験の話と、どんなに弾圧されても命がけで侵略戦争に反対したのが日本共産党だと知ったことが、政治家として平和を守る運動を続けてきた原点です。

「ヤングケアラー」だった中高生時代

中学3年生の時、母が交通事故で長期入院。重い躁うつ病も併発したため、父とともに家事をこなし、弟の面倒をみながらの受験と高校生活でした。このような子ども

を今は「ヤングケアラー」といって、国も支援の必要性を認めています。

「早く自立しなければ」と高卒で農林水産省へ働きながら女子栄養大学を卒業

母が病気で退職し、「早く自立しなければ」「みんなのために働ける職に」と農林水産省に就職。農政を通じて国の政治に矛盾を感じるようになり、21歳の時、日本共産党に入党しました。

食糧自給率の低下、増え続ける輸入食品、残留農薬など食の安全性に関心をもつようになり、働きながら女子栄養大学で学ぶため、東京へ転勤。職場では、労働組合の婦人部長として女性職員の相談相手になりました。

昼は仕事、夜は学生という「二足のわらじ」生活が、子育てしながらの議員生活でも役に立ちました。

子育てしながら区議28年

下の息子が産まれた時、認可保育園は待機児童となったため無認可保育室に預け、上の娘は区立大久保第一保育園だったため、半年間は2カ所の保育園に通いました。29歳で新宿区議会議員に初当選。子育てしながら7期28年、みなさんからの様々なご相談を一緒に解決しながら、必要な制度をつくってきました。



コロナを終息させて、またお祭りができますように



染色は新宿区の地場産業です。毎年元旦は、六八幡宮前でご挨拶



区議1期目の時、子どもと一緒にさくらのついで

すぐ動く、ブレない、頼りになる 沢田あゆみさん

沢田あゆみさんは、地域で何か困りごとがあった時に相談に行くと、すぐに動いてくれることで有名です。先日も、マンション建設で問題が起きた時、親身になって対応してくれました。町会で「頼りになる人」と言われています。

西早稲田3丁目 河野秀子さん



新宿区の財政は9年連続黒字！
貯金は65.6億円(2021年度末)！

財政力を活かして
区民生活の支援を



次の4年間

実現めざし頑張ります！

新宿区でも 学校給食無償化を！



葛飾区が学校給食完全無償化に踏み出し、台東区や清瀬市も2023年1～3月の給食費を無償にしました。
財政力のある新宿区でこそ無償化を実現します。

共産党が条例提案、予算修正案

日本共産党区議団はこの4年間だけでも、他区が実施している「3人目の子どもの給食費無償化」条例を1回、「給食費に係る就学援助の拡大」の予算を4回提案しましたが、自民・公明・立憲・新宿会などの反対で実現していません。

学童クラブの増設で 定員オーバー解消

区立学童クラブの7割が定員オーバーで、放課後子どもひろば、ひろばプラスもぎゅう詰め状態です。

区内学童クラブの増設を求め、2022年度は鶴巻小にできましたが、戸一小にはなく、戸二小は定員を大きく超えています。学校外にも区立学童クラブを増設し、放課後の子どもの居場所を確保します。



高田馬場第二学童クラブも定員オーバー

夏休み等に学童クラブで昼食の提供を提案しています。

高齢者・障害者施設の新増設

「特別養護老人ホームを国土地・都用地に！」と長年取り組み、百人町のけやき園をはじめ下落合、富久町などの国土地に増やしてきました。特養との併設も含め障害者の入所施設も増やしてきました。

しかし、特養ホームは今も600人待ち。障害者の通所・入所施設とも足りません。公有地での民設民営だけでなく、民有地も活用し公設民営も含めて増やします。



百人町のけやき園

神宮外苑の樹木伐採ストップ！

神宮外苑の再開発で樹齢百年の樹木が約1000本も撤去されようとしていることは、地球温暖化対策にも逆行します。

樹木「伐採・移植」の許可権限を持っているのは区長です。沢田あゆみは、区議会環境建設委員会で「伐採ストップ」「再開発計画の見直し」を求めた唯一の議員です。神宮外苑の樹木を守り、子どもたちに豊かな緑を引き継ぎます。



くらし・営業を応援

- 物価高で苦しむ区民(課税世帯)にも給付金
- 2万円の学用品費は毎年支給
- 障害者に続き高齢者と子どもスポーツ施設使用料減免
- 国保料・介護保険料の負担軽減
- 事業者に電気代助成と直接家賃補助



子育てしやすい新宿へ全力



子ども医療費無料化を拡大し、ついに18歳まで実現！

沢田あゆみが議員になった当時、子どもの医療費無料化は就学前まででした。日本共産党区議団は繰り返し条例提案など行い2007年に中学3年生まで拡大してきました。さらに18歳までの拡大を求め2020年には条例提案も行い、その時は自民・公明・立憲・新宿会・スタ新などが反対しましたが、その後、東京都が補助することになり2023年4月から18歳までの医療費無料化が実現することになりました。

保育園の待機児童解消

自民・公明区政は区立保育園を廃園にして、待機児童が増大。ピーク時は176人(2013年4月1日、国基準待機児童数)にもなりました。沢田あゆみは第二子出産直後に子どもが待機児童となり、二カ所の保育園に通った経験から、「認可保育園の増設で待機児童解消を！」と頑張ってきました。認可保育園の定員が大幅に増え、今では2年連続待機児童ゼロとなりました。

学校のエアコン設置、普通教室から体育館まで

日本共産党区議団は区議会ですべて最初に学校教室にエアコン設置を提案。当初は与党議員が「もやしっ子になる」などと反対しましたが、沢田あゆみは当時、小学生の娘に温度計を持たせて教室の温度を調べ、夏の教室が連日30度を超える実態を議会で紹介しました。日本共産党区議団が予算修正案を提案し、子どもたちからも声が上がらる中で、ついに区政を動かし、エアコン設置は最初、中学3年生の教室から始まり、普通教室、特別教室と広がり2020年度には体育館にも設置が完了しました。

声を上げられない子どもや高齢者のために

学校や家に居場所がない子どもたちが歌舞伎町に集まり「ト一横キッズ」と呼ばれています。その

ような子どもたちが犯罪に巻き込まれたり性搾取の被害に遭ったりして大きな社会問題となっていました。実際に現場に足を運び、支援団体・支援者の要望を聴いてきました。



高齢者のワクチン予約をお手伝い

新型コロナウイルスのワクチンは当初、高齢者から接種が始まり、1回目

は電話かネットで予約しなければなりません。しかし電話は繋がらず多くの高齢者が困っていました。



区議団政調会長として他党とも力あわせ

共産党区議団の幹事長、団長を歴任し、現在は政調会長として政策立案や野党共闘の要として奮闘しています。

国が同性婚を認めない下で同性カップルをその子どもも含めて家族として認める「パートナーシップ・ファミリーシップ条例」を新宿につくろうと、2021年2月、区議会の5会派14人が共同提案しました。

パートナーシップ・ファミリーシップ条例を提案

その時は、自民・公明・新宿会の反対で実現しませんでした。2022年11月から東京都のパートナーシップ宣誓制度が始まりました。

精神障害者にも障害者福祉手当の支給が実現



5会派14人の区議で共同申し入れ

身体・知的の障害者に支給されている「心身障害者福祉手当」を精神障害者にも支給する事について、日本共産党区議団は10年前前から提案し条例提案も行ってきましたが、その度に与党に阻まれてきました。